

俱会一処



慶春

禅林八十九世

牟叟修空



法然上人は七十五歳の時、法難に遭い、
四国に流されます。

いざ、法然上人が京都の地を離れると
きに、今生の別れと思う九条兼実公に、
お気持ちを詠われたのが、「露の身はこ
こかしこにて きえぬとも こころはお
なじ 花のうてなぞ」の歌です。

葉の上の朝露は、日がのぼるとたちま
ち消えてしまうように、人の存在も、は
かなく消えてしまうものです。人の別れ
も、必ずやってきます。

そうだとしても、「こころはおなじ 花
のうてなぞ」というように、あなたも私も、
同じお浄土の蓮の上に帰るのです。

別れを悲しむだけではなく、必ず再会
できることの喜びを詠われているのです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長小木曾善龍猊下のご染筆です。前々号の色紙は、滋賀県大津市在住白子福子様へ贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。二月十五日に抽籤致し一名に進呈。

怠ることなく励め

大般涅槃經

精進
不怠



禅林八十九世九十郎又



お釈迦様の最後の言葉は「怠ることなく修行を完成せよ」です。

お釈迦様は三十五歳で悟りを開かれ、八十歳で亡くなるまで、平易な言葉で人々を教化されました。そして弟子たちへの最後の言葉が「怠ることなく」です。

お釈迦様が生涯をかけて説かれたことは、日常生活に即した実践の教えです。苦しみに耐え、打ち勝ち、乗り越える術です。

困難に直面すると、易きに流れ、面倒なことは先送りしたくなります。だがそれは確かな解決法ではありません。「怠ることなく励む」ことこそ解決の第一歩です。これがお釈迦様の遺言です。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長小木曾善龍猊下のご染筆です。前々号の色紙は、京都市西京区在住西林明子様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。三月十五日に抽籤致し一名に進呈。

因縁和合すゆえにこの身あり。
この義をもつてのゆえに
父母の恩重し。

観経疏序分義



先祖乃血

全て和合し

吾が命

禪林八十九世本叟



ユズリハは、若葉が育つのを待つ
てから親葉が枯れる。

だから、「譲り葉」と言う。

親葉が譲ったのは、葉の伸びる枝
だけではない。根から得られる養分
も若葉に譲って……。

散った葉は、根元で腐り養分とも
なる。

親葉がすぐに枯れなかったのは、
若葉が育つのを見届けたかったから
だろう。

連綿と続く「いのち」を遺して。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長小木曾善龍親王下のご染筆です。前々号の色紙は、滋賀県大津市在住駒井織子様に贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。四月十五日に抽籤致し一名に進呈。

わが父母を極樂へむかへさせ
おはしまして、罪をも
滅しましませ

法然上人

或る人に示されける詞

萬機
攝



禪林ハ十九世



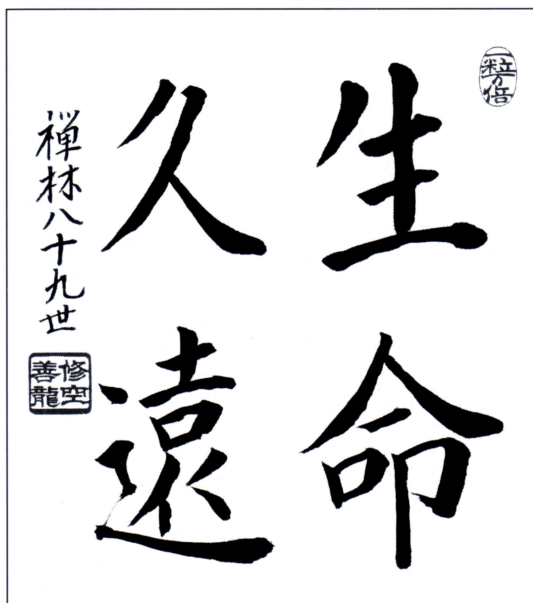
亡くなった母は、強情な人だった。自分の思い通りしないと気が済まない気性だった。叔父、叔母の陰口を私たち子どもに話したり、人の揚げ足を取っては、自慢話をしていた。そんな母だから、病院では看護師ともめた。同室の患者やその家族と要らないいもめ事を起こした。終いには、被害妄想のような事を言い出した。とても厄介だった。医師に、「昔の性格は知りませんが、これは認知症です」と言われた。どこまでが母の性分で、どこからが病気のせいなのかは分からないけれども、医師の言葉で少し気が楽になった。

総本山 永観堂 禪林寺

右の色紙は管長小木曾善龍親下のご染筆です。前々号の色紙は、石川県金沢市在住瀬戸花子様へ贈呈いたします。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。五月十五日に抽籤致し一名に進呈。

おろかなる者に
生死ひとよの輪廻はながからん

法句經



若くありたい
健康がほしい
死ぬのが怖い

愚図ぐずれば 愚図るほど

愚痴れば 愚痴るほど
闇やみは深まり 不安は募り
苦しみが増す

まさに知るべし
法に生かされ
弥陀と共に生き
けして死なない
久遠くわんの生命いのち
あることを

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長小木曾善龍親下のご染筆です。前々号の色紙は、兵庫県高砂市在住馬場みどり様に贈呈します。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。六月十五日に抽籤致し一名に進呈。

存亡共に

孝行を致すべし

西山上人 「五段鈔」

存亡
孝養

禅林八十九世

修空
善龍

九十を過ぎて

親が亡くなった。

吊問に来てくれた方々が

「天寿をまっとうされましたね。」

「大往生ですねえ。」

と、言ってくださる。

でも、もっと生きていて

欲しかった。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長小木曾善龍親下のご染筆です。前々号の色紙は、愛媛県今治市在住神野公一様に贈呈します。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。七月十五日に抽籤致し一名に進呈。

諸法皆是因縁生

大般若経

共存 共榮



禪林八十九世



朝顔のつるが延びてきた。

物置の隅にあつた竹竿を立てた。

竿がなければ、朝顔のつるは、

互いに絡み合い、他の花にも絡みつき、

真つ直ぐには育たない。

朝顔を蒔かなければ、この竹竿を捨てて

いたかも知れない。

使い道が生まれ、竹竿も活かされた。

どちらが先に必要とされ、どちらがどち

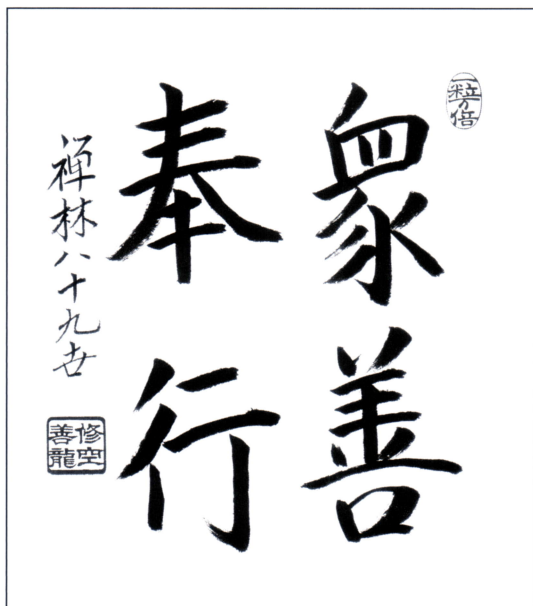
らを助けたのかは分からないけれど、

共に活かされ生きている。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長小木曾善龍猊下のご染筆です。前々号の色紙は、兵庫県加古川市在住河野豊様に贈呈します。ご希望の方はハガキで住所・氏名・を明記の上、下記へお申し込み下さい。八月八日に抽籤致し一名に進呈。

善因楽果



頭^{うづ}たれ神佛に

何を望まん

あれもこれ

これもあれ

自分都合のご利益^{りやく}ばかり

叶^{かな}わぬ願^{ねが}い

過^か誤^ご失態^{しつたい}は

身から出し錯^{さく}なれど

「神も佛もあるものか」の捨て台詞^{ぜりふ}

ご利益は

貰^{もら}うものではなく与えるもの

善^よきことを思い

善^よきことをなし

善き縁をいただこう

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長小木曾善龍殿下のご染筆です。前々号の色紙は、滋賀県大津市在住田中豊様に贈呈します。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。九月十五日に抽籤致し一名に進呈。ご

迷
悟

 震道在

日常間

禅林八十九女修空



故植木等氏の第一のヒット曲は『スーダラ節』です。昭和三十六年に発売され、その年の大ヒットになりました。

この曲の誕生には、こんな逸話があります。植木氏の口癖であった「スイスイスーダララッタ」をメロディーにした曲に、青島幸男氏が詩を加えて、完成したのが、この『スーダラ節』です。

もともと生真面目な植木氏は、こんなにふざけた内容の歌詞を歌いたくないと、歌うことを渋ります。飲み過ぎたり、金銭欲・色欲にかられたりする様子は、下品に感じたのでしょうか。でも、住職でもあった父の勧めで、発売します。すると、大ヒット。

サビの「わかっちゃいるけどやめられない」は、私たちの煩惱の有り様を、そのまま表現しています。頭で分かっている、も、ついつい、やってしまう迷いの姿です。

総本山 永観堂 禅林寺

恩送り



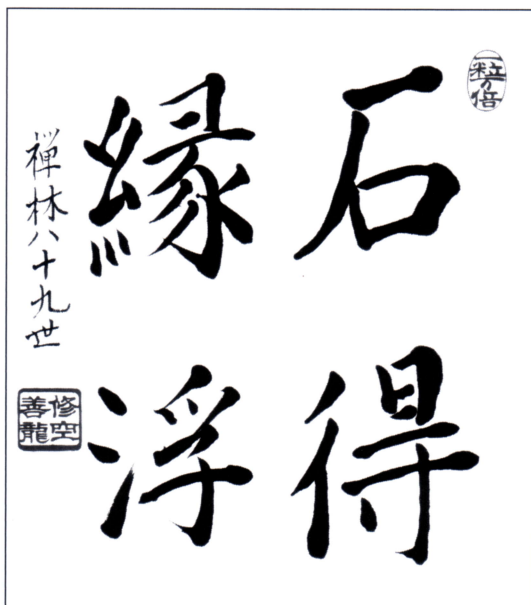
釈尊一代の教えを要約して漢字一字に表すならば「恩」という字に尽きると教えられました。

佛教の基本は、恩を知り恩を感じるという「知恩・感恩」にあり、さらに恩に報いるという「報恩」へと拡がっていきます。

報恩の実践には二通りあって、一つは「恩返し」。つまり親や祖父母、師など恩を受けた人に直接お返しすることです。もう一つ、「恩送り」という言葉があります。受けた相手に限らず恩を別な誰かに送る。その誰かがまた別の誰かに送る。これが恩送りで、こうして多くの人が繋がっていく、「人の輪と和」が生まれてくるのです。

総本山 永観堂 禅林寺

諸法実相



石も縁を得れば浮かぶ (佛説譬喻経)

覚えず

けつまずく

憎き石ころも

鉄道線路には

役立つ

敷石となり

我が行く手

阻み遮る

大岩も

人皆愛でる

枯山水の

庭石となる

我が前に

刻々現れ

移ろう景色

それぞれが それぞれに

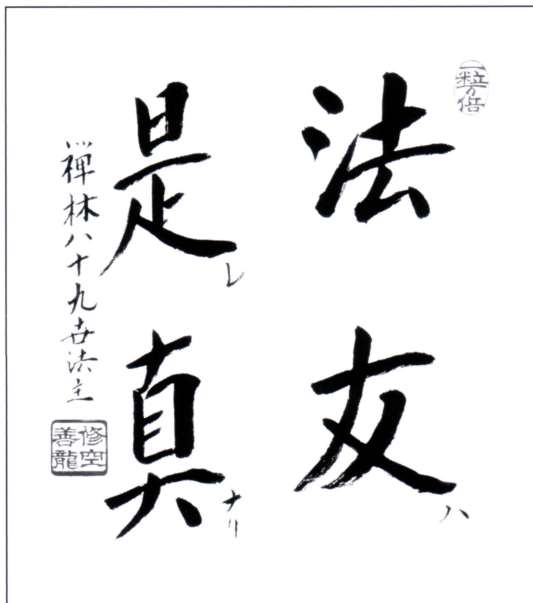
佛の真実がある

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長小木曾善龍猊下のご染筆です。前々号の色紙は、大阪府高槻市在住西村ひろみ様に贈呈します。ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。十月十五日に抽籤致し一名に進呈。

生まれてはまず思いでん ふるさと
に契りし友の深きまことを

法然上人



俳人の正岡子規に「筆まかせ」と題する
随筆があります。その中に十九人の友人の
名をあげ、それぞれに「愛友」「良友」など
の特色を示す敬称をつけているのです。

好友・敬友・益友・直友・亡友などの他
に、畏友として夏目漱石、剛友として秋山
真之さねゆきの名を記しています。少友酒友なども
あって、いずれも子規にとつて大切な友で
あり、三十五歳の若さで世を去ったけれど、
多彩な友人に恵まれた幸せな日々であつた
ようです。法然上人は、浄土での再会を約
束した念佛の朋友こそ真の友であり、心の
友であると言われています。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長小木曾善龍猊下のご染筆です。前々号の色紙は、名古屋市在住伊藤照子様に贈呈します。
ご希望の方はハガキで住所・氏名を明記の上、下記へお申し込み下さい。一月十五日に抽籤致し一名に進呈。